



2018年3月期決算説明会

パイオニア株式会社
代表取締役 兼 社長執行役員
小谷 進

2018年5月14日

本日の発表のポイント

1. 2018年3月期 連結決算:

- 計画比では、営業利益は、国内や新興国でのカー市販の売上未達や、カーOEMの原価率の悪化、および経費節減の未達により下回り、当期純損益も悪化
- 前期比では、カーOEMを中心に売上が減少したことから、営業利益は減益となり、当期純損益も損失が拡大

2. 2019年3月期 連結業績予想:

- 売上は、3,800億円、営業損益は、カーOEMの減価償却費の増加、売上増に伴う販売変動費増や自動運転関連の先行開発費用の増加により、50億円の損失を見込む
- カーOEM事業の抜本的な見直し施策を検討中。当期純損益予想の開示は、その影響額が確定するまで留保する

本日の説明

1. 2018年3月期 連結決算
2. 2019年3月期 連結業績予想

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報や将来の事象等の結果としてこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2018年3月期 連結決算

2018年3月期：連結業績概要

(単位:億円)

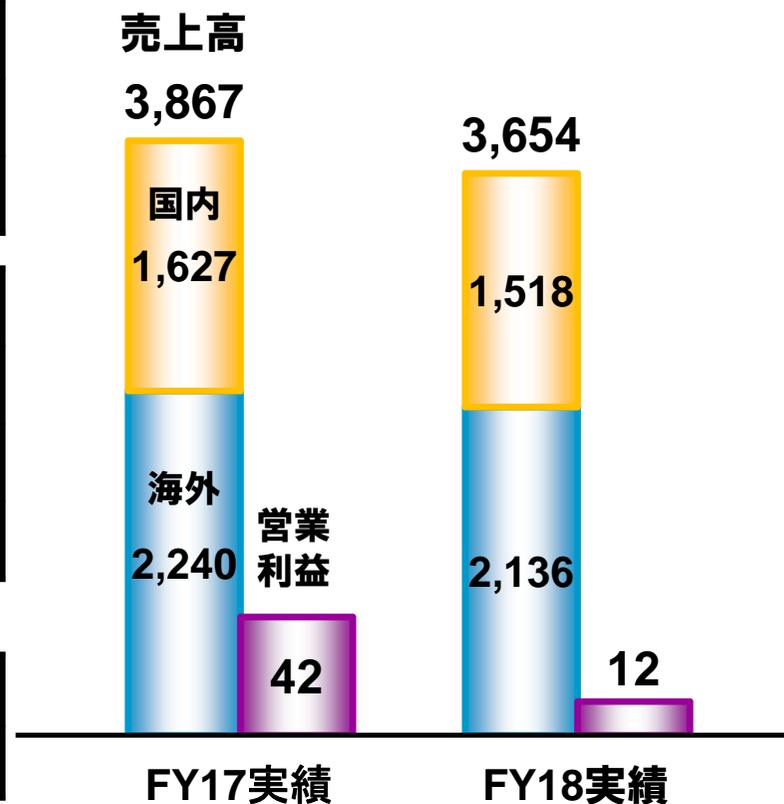
	FY17実績	FY18実績	前期比
売上高	3,867	3,654	94.5%
営業利益	42	12	28.7%
経常損益	30	-31	-
当期純損益*	-51	-71	-

1株当たり純損益*	-13.76円	-19.12円	-5.36円
ROE	-6.0%	-8.7%	-2.7%
1株当たり純資産	224.72円	212.84円	-11.88円
ROA	-1.7%	-2.5%	-0.8%

* 親会社株主に帰属する当期純損益

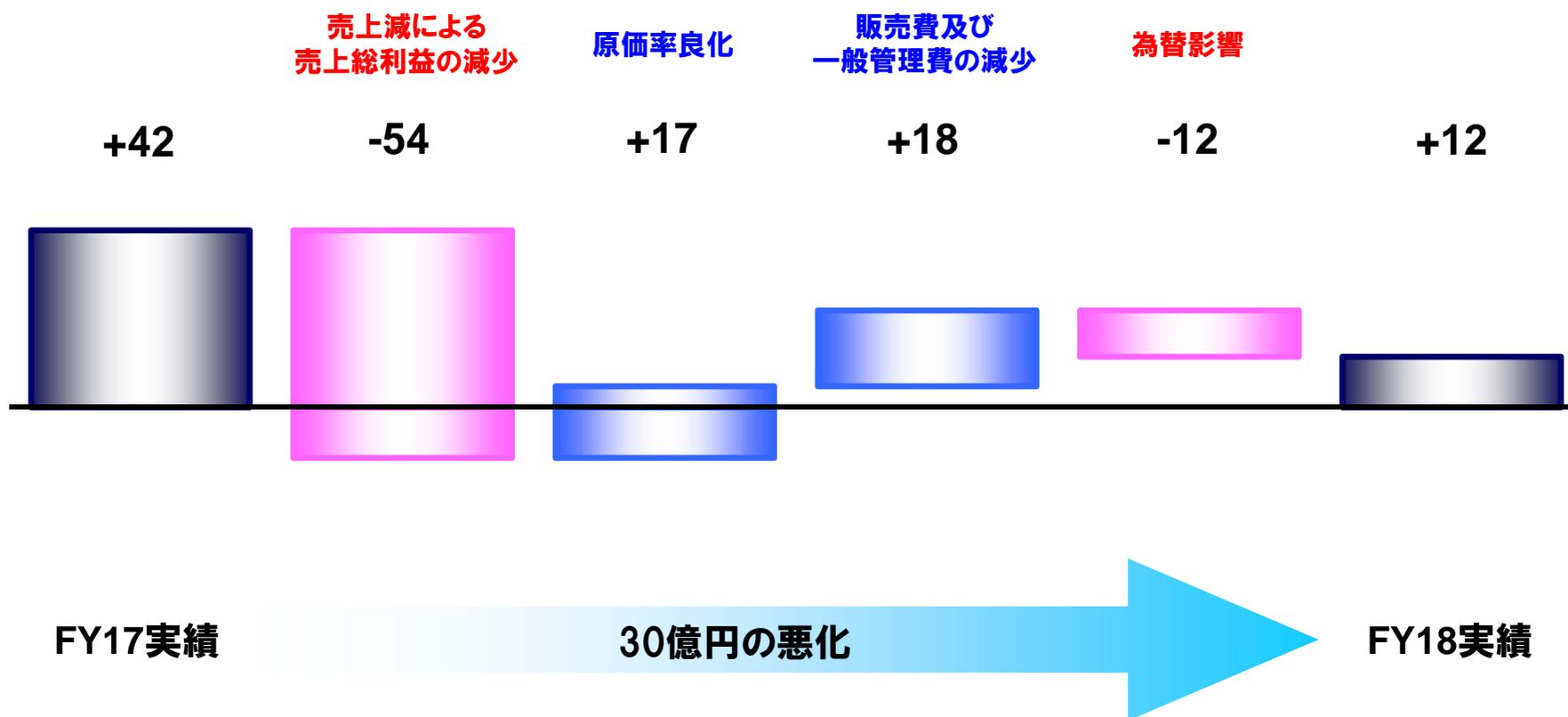
為替 平均レート	1米ドル	108.38円	110.85円	+2.2%
	1ユーロ	118.79円	129.70円	+8.4%

(単位:億円)

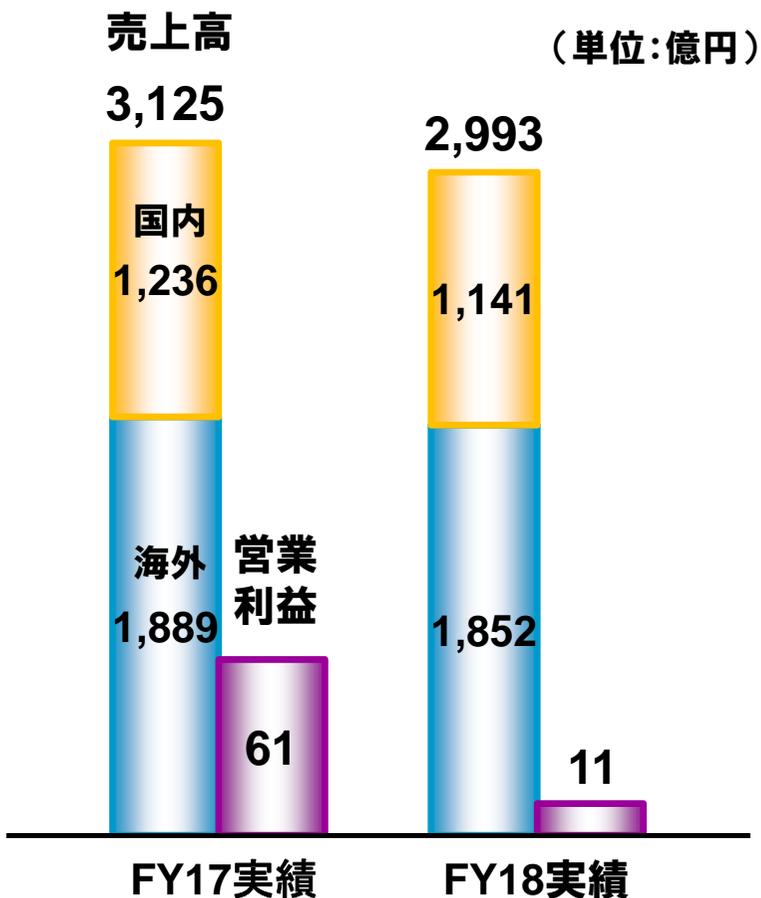


2018年3月期：営業利益増減要因

(単位：億円)



2018年3月期: カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 58% (前期 60% *)

前年比	96% (国内 92%、海外 98%(現地通貨ベース 94%))
増収要因	テレマティクスサービス、OEMカーオーディオ、市販カーオーディオ、地図ソフト
減収要因	OEMカーナビゲーションシステム、市販カーナビゲーションシステム

< 営業利益 >

前年比	50億円の悪化
良化要因	販売費及び一般費管理費の減少 原価率の良化
悪化要因	売上減による売上総利益の減少 為替影響

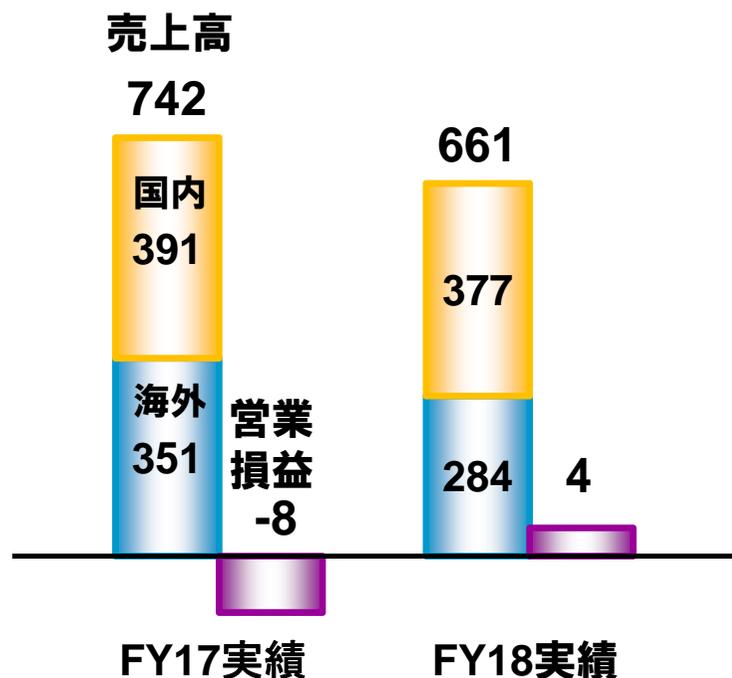
※ 当セグメントに含まれる主要製品およびサービス:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カースピーカー、テレマティクスサービス、地図ソフト

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

* 従来「市販」に含まれていた海外のカーナビゲーションシステムの一部を、当期から「OEM」に変更しています。これに伴い、前期の数値についても組替表示しています。

2018年3月期：その他

(単位:億円)



< 売上高 >

前年比	89% (国内 97%、海外 81%(現地通貨ベース 79%))
増収要因	DJ機器(生産・販売受託)、光ディスクドライブ
減収要因	ホームAV、CATV関連機器(事業譲渡)、 有機ELディスプレイ

< 営業損益 >

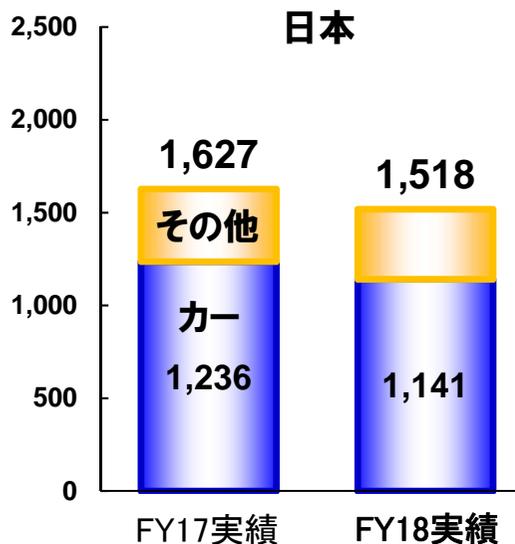
前年比	12億円の良化
良化要因	原価率の良化 販売費及び一般管理費の減少
悪化要因	売上減による売上総利益の減少

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
光ディスクドライブ関連製品、FA機器、電子部品、
有機ELディスプレイ、DJ機器(生産・販売受託)、ホームAV

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2018年3月期：地域別売上高

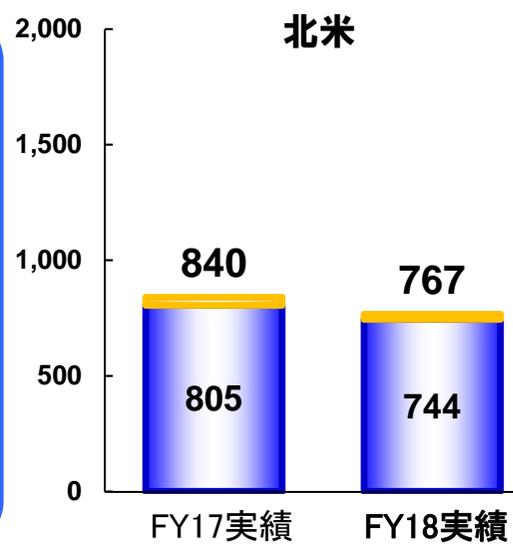
(単位:億円)



前期比
93%

増収要因
テレマティクスサービス
OEMカーオーディオ
FA機器
DJ機器
地図ソフト

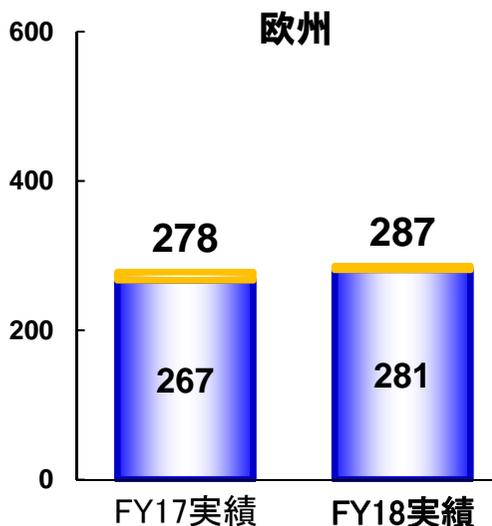
減収要因
OEMカーナビゲーションシステム
CATV関連機器(事業譲渡)



前期比
円ベース: 91%
現地通貨ベース: 89%

増収要因
地図ソフト

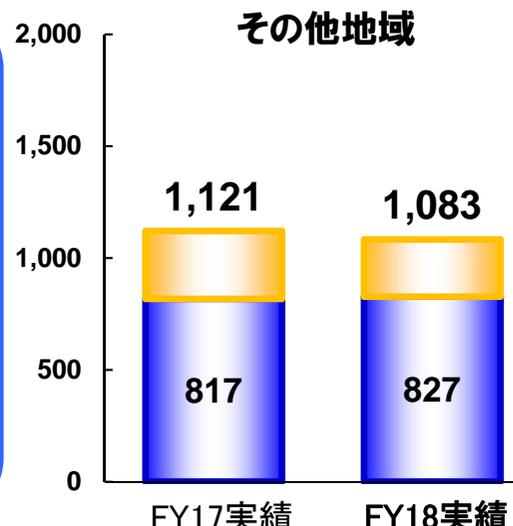
減収要因
OEMカーオーディオ
OEMカーナビゲーションシステム
市販カーナビゲーションシステム



前期比
円ベース: 103%
現地通貨ベース: 95%

増収要因
市販カーオーディオ
OEMカーオーディオ

減収要因
FA機器



前期比
円ベース: 97%
現地通貨ベース: 93%

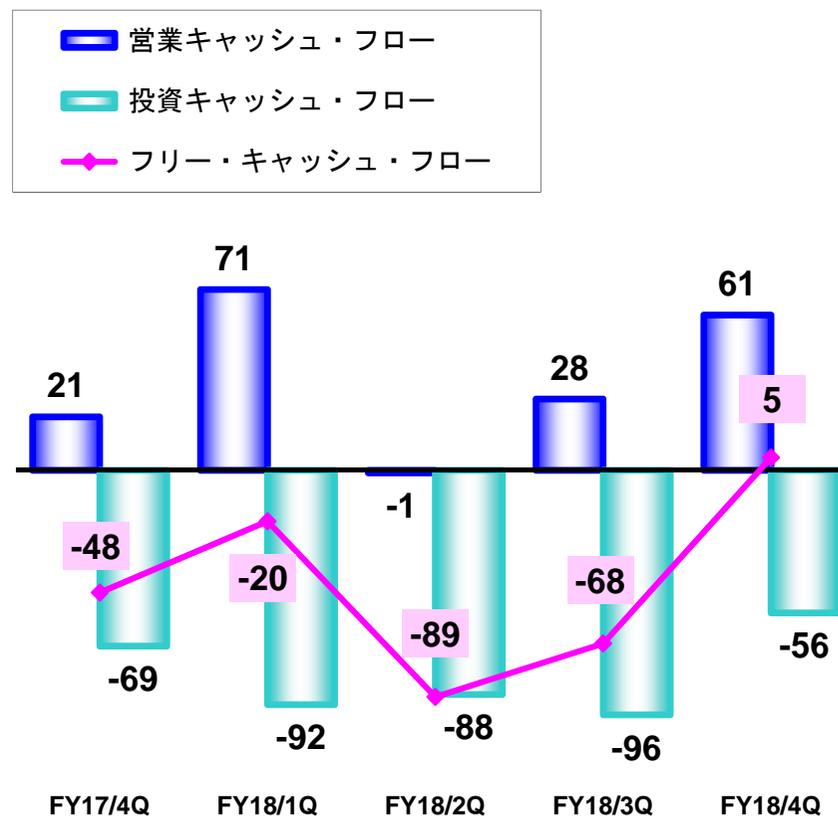
増収要因
OEMカーオーディオ
市販カーオーディオ

減収要因
ホームAV
OEMカーナビゲーションシステム
有機ELディスプレイ

2018年3月期：キャッシュ・フロー

	FY17実績	FY18実績
税金等調整前当期純損益	-23	-47
減価償却費	249	206
売上債権の増減	73	32
棚卸資産の増減	29	-4
仕入債務の増減	-67	-30
未払費用の増減	-1	-29
その他	-64	31
営業キャッシュ・フロー	196	159
投資キャッシュ・フロー	-340	-332
財務キャッシュ・フロー	14	143
現金・現金同等物の換算差額	-6	2
フリー・キャッシュ・フロー	-144	-172
現金・現金同等物の増減	-136	-28
現金・現金同等物の残高	384	356
NETキャッシュ残高	-8	-144

(単位:億円)



2. 2019年3月期 連結業績予想

2019年3月期：連結業績予想

(単位:億円)

	FY18実績	FY19予想	前期比
売上高	3,654	3,800	104.0%
営業損益	12	-50	-

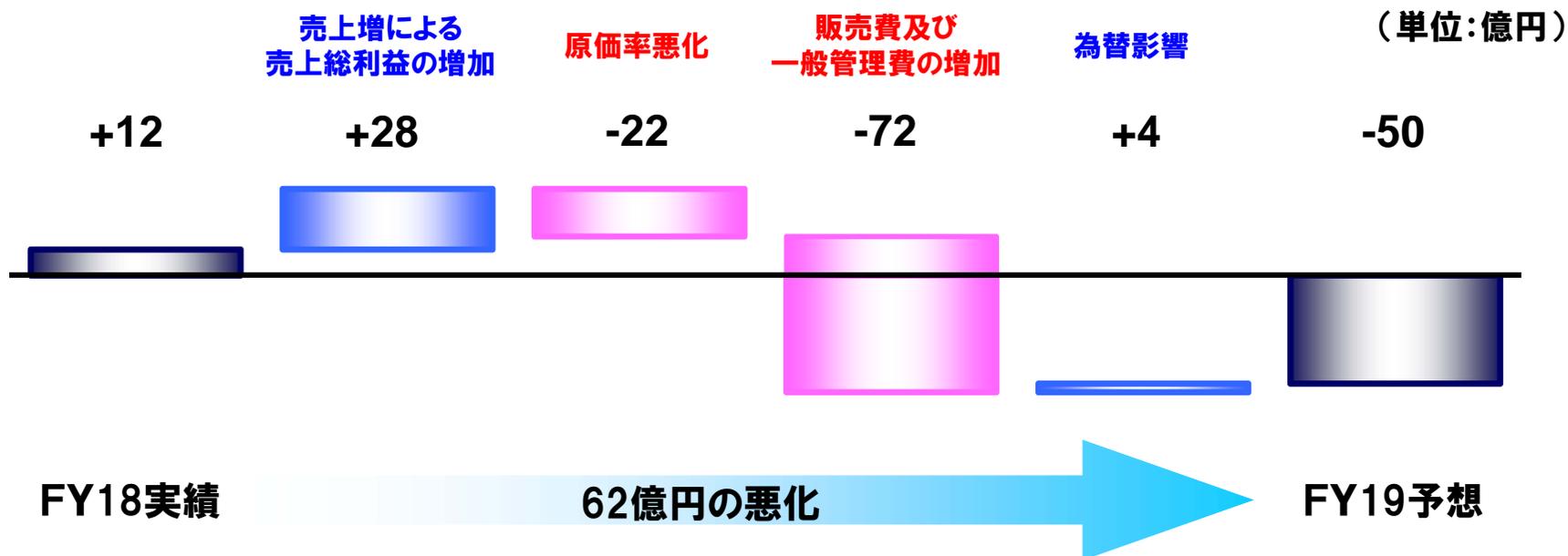
OEM事業の抜本的な見直し施策を検討中。

当期純損益の予想の開示は、その影響額が確定するまで留保する。

為替 前提レート	1米ドル	110.85円	110円	-0.8%
	1ユーロ	129.70円	130円	+0.2%

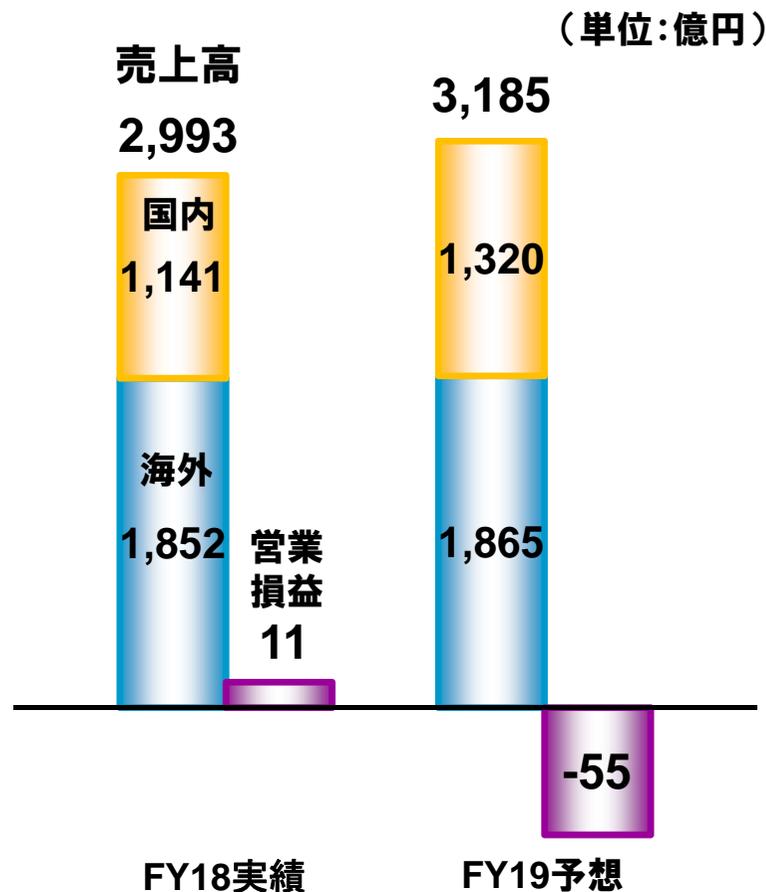
注) 1円の円高インパクトは、売上高では、米ドルは▲約17.4億円、ユーロは▲約2.1億円、
営業利益では、米ドルは+約1.3億円、ユーロは▲約1.5億円。

2019年3月期予想：営業損益増減要因



- カー市販ではテレマティクスサービスの拡大や新興国市場での売上増、カーOEMでは大規模受注の本格的な立ち上がりを見込むことから、売上総利益が増加
- カーOEMの減価償却費の増加(+約60億円)等により、原価率が悪化
- 売上増に伴う費用の増加や自動運転に関わる開発費の増加等により、販売費及び一般管理費が増加

2019年3月期予想：カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 56% (前期 58%)

前期比	106% (国内116%、海外 101%(現地通貨ベース 101%))
増収要因	OEMカーオーディオ、テレマティクスサービス、市販カーオーディオ
減収要因	特になし

< 営業損益 >

前期比	66億円の悪化
良化要因	売上増に伴う売上総利益の増加 為替影響
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加、原価率の悪化

< 出荷台数 > (単位:千台)

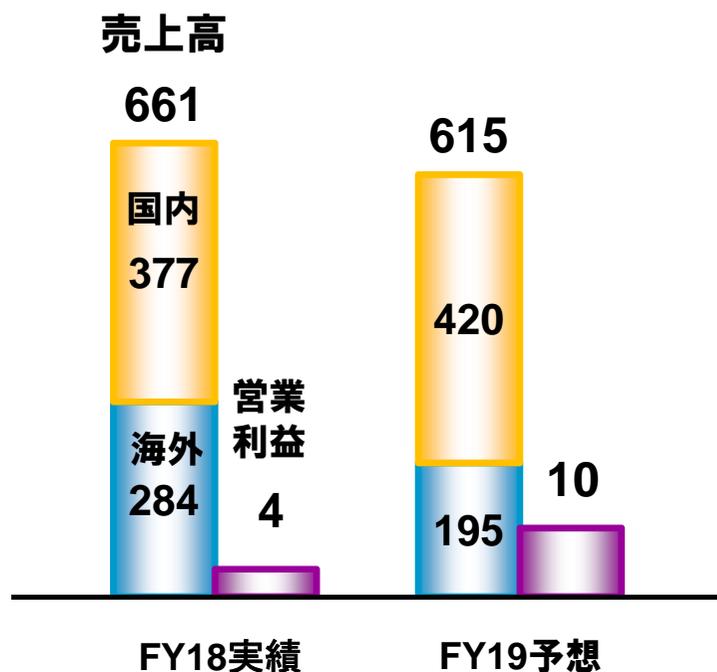
	FY18実績	FY19予想
市販カーナビ	559	600
市販カーCD	5,324	5,600
市販カーAV	1,486	1,900

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

市販は前期並みの営業利益を、OEMでは赤字拡大を見込む

2019年3月期予想：その他

(単位:億円)



< 売上高 >

前期比	93% (国内 111%、海外 69%(現地通貨ベース 69%))
増収要因	光ディスクドライブ
減収要因	FA機器(一部事業譲渡*)、ホームAV

< 営業利益 >

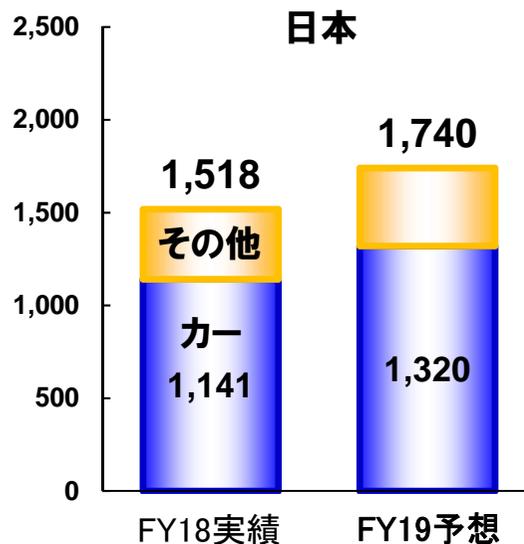
前期比	6億円の良化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少 原価率の良化
悪化要因	売上減に伴う売上総利益の減少

* 2018年2月に発表のとおり、2018年6月に電子部品関連のFA機器事業(株式会社パイオニアFA)を譲渡する予定です。

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2019年3月期予想：地域別売上高

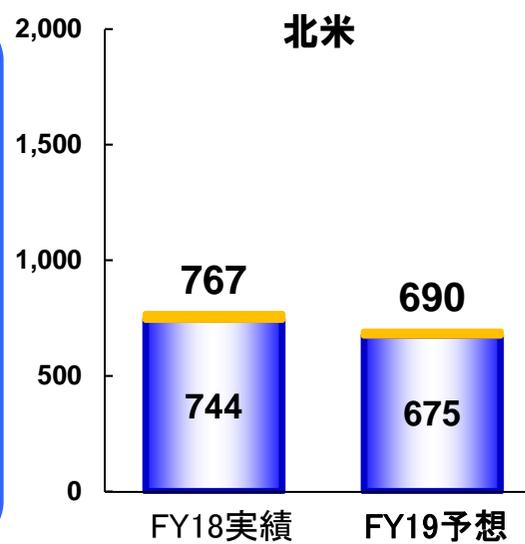
(単位:億円)



前期比
115%

増収要因
テレマティクスサービス
OEMカーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ
市販カーナビゲーションシステム
地図ソフト

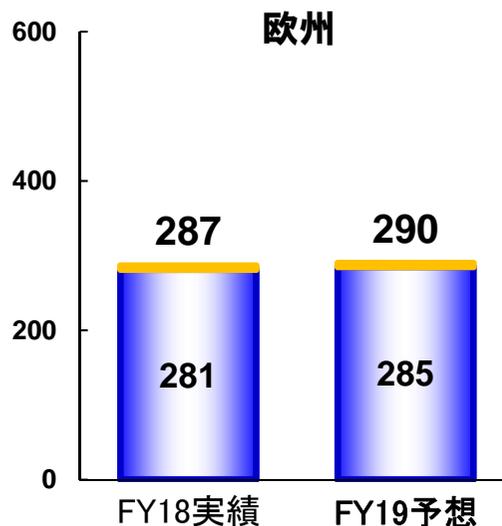
減収要因
特になし



前期比
円ベース: 90%
現地通貨ベース: 90%

増収要因
特になし

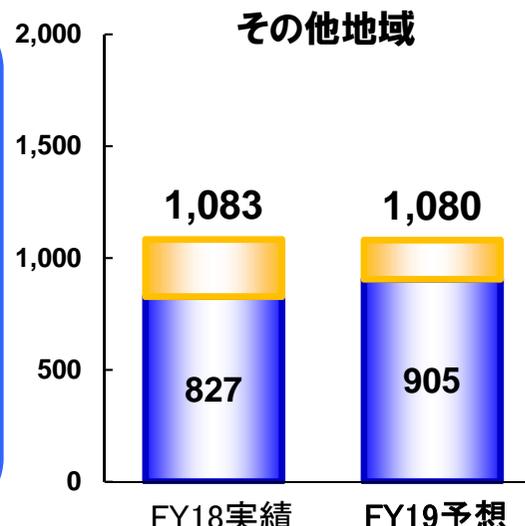
減収要因
OEMカーナビゲーションシステム



前期比
円ベース: 101%
現地通貨ベース: 101%

増収要因
OEMカーオーディオ

減収要因
特になし



前期比
円ベース: 100%
現地通貨ベース: 101%

増収要因
市販カーオーディオ
OEMカーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ

減収要因
FA機器
ホームAV

2019年3月期予想：研究開発費、減価償却費、棚卸資産

(単位：億円)

	FY17実績	FY18実績	FY19予想
研究開発費 (売上高比率)	239 (6.2%)	259 (7.1%)	300 (7.9%)
減価償却費	249	206	290
棚卸資産	498	501	545

カーエレクトロニクスの課題と施策

事業	課題	施策
OEM事業	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア開発投資の増大に伴う償却費の大幅な増加 営業赤字の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスパートナーとの合併会社化などを含め、事業、体制の抜本的な見直し
市販事業	<ul style="list-style-type: none"> 新製品のタイムリーな導入 新興国の市況回復遅れ 既存ビジネスの収益性の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 新興国市場を中心にスマートフォン連携機能を強化した新製品や、音を中心としたエンタテインメント性を追求した新製品の市場導入 テレマティクスサービスやソリューションビジネスなどの新規事業のさらなる強化
地図事業・自動運転関連	<ul style="list-style-type: none"> 地図事業の強化・拡大 3D-LiDARによる自動運転領域への参入とポジションの確立 	<ul style="list-style-type: none"> HERE Technologiesとの連携強化 高精度地図の開発 3D-LiDARの製品化に向けた、今秋のセカンドサンプルの出荷

Pioneer